

2016年2月13日

一般社団法人 日本新聞協会 御中

特定非営利活動法人 日本タバコフリー学会 代表理事 菑潤 (医師)



タバコ産業の広告中止のお願い

貴協会の新聞広告倫理綱領及び新聞広告掲載基準の制定と宣言「新聞広告の及ぼす社会的影響を考え、不当な広告を排除し、読者の利益を守り、新聞広告の信用を維持、高揚するための原則を持つ必要がある」に敬意を表します。

さて、本年1月17日又は18日に全国紙各紙に全面カラー広告で掲載のJT広告「たばこを好きな人がいます。たばこを嫌いな人がいます。」(同封)は、以下の点で貴綱領及び貴基準違反と思われる、抗議し、再発防止を要請します。

貴綱領1.「新聞広告は、真実を伝えるものでなければならない。」

貴基準2.「内容が不明確なもの」、同3.「虚偽または誤認されるおそれのあるもの」、同9.「非科学的または迷信に類するもので、読者を迷わせたり、不安を与えるおそれがあるもの」

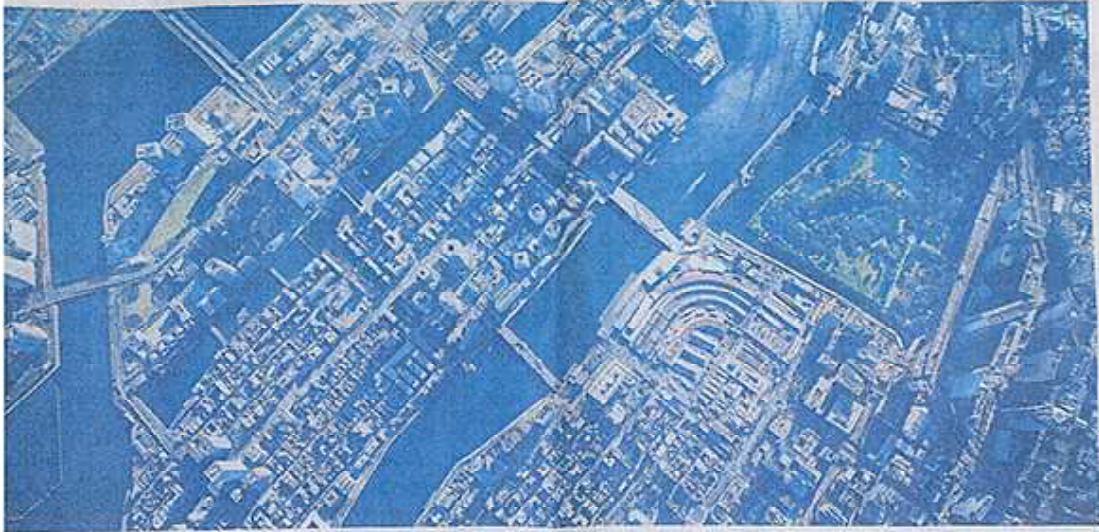
理由1. 医学的には喫煙習慣の本態は、ニコチン(薬物)依存症で、国際疾病分類にも定義され、「好き嫌い」の問題とするメッセージは、明確な誤りです。

理由2. 「たばこを吸わない人にとっては、たばこの煙が迷惑になることがあります。」というメッセージは、受動喫煙の危険を迷惑に矮小化しています。WHOは、タバコ関連病死が毎年世界で600万人に上り、うち1割の60万人が受動喫煙で死亡と警告しています。日本でも厚生労働省の研究班が、受動喫煙による心筋梗塞と肺癌で、毎年6800人が死亡と警告しています。

理由3. 「分煙では受動喫煙を防止できず、全面禁煙でしか防止できない」ことも医学的には常識であり、WHOのタバコ規制枠組み条約(FCTC)批准国は、公共の場所の全面禁煙実施義務が課せられています。JTによる「分煙環境の整備」は、批准国日本のFCTC違反を既成事実化するもので、容認できません。

理由4. 「さまざまである、ということ。それを認め合い、尊重しあえる未来(後略)」というメッセージは、一見多様性を尊重する外見を装っていますが、理由2の危険を隠蔽し、「好き嫌い」の問題に矮小化しており看過出来ません。タバコ産業の広告はタバコの害を過小評価させるような国民に誤った情報を伝える内容なので、一切掲載しないように、加盟各社に周知をお願いします。タバコ産業の広告は、今回のようなイメージ・マナー広告に限らず、ブランド広告もFCTC違反であり、全面禁止すべきと考えます。

恐縮ですが、本書面への書面でのご回答を本年3月末までをお願いします。



たばこを好きな人がいます。  
たばこを嫌いな人がいます。

世の中には、さまざまな暮らしがある。  
さまざまな人がいる。  
そのひとりひとりに、それぞれの思いや  
感情がある。  
たばこについても同じように、いろいろ  
な考えがあると思います。

たばこを吸うことは、健康上のリスク  
を伴います。  
それを認識したうえで、たばこを吸う  
大人には、それぞれにたばこを服用  
する理由があります。

一方、たばこを吸わない人にとっては、  
たばこの煙が迷惑になることがあります。  
たばこを吸う大人は、つねに  
マナーを守ることを心がけるべきです。  
だから私たちJTBは、吸う人、吸わない  
人が共存できる世の中をめざし、さま  
ざまな活動にいま取り組んでいます。  
私たちは「分煙環境の整備」を進めて  
います。それぞれの場所に合わせて  
なやり方で、吸う人も吸わない人も心地  
よく過ごせる環境を増やしたいと考えて  
いるからです。

私たちは「マナーの啓発活動」も進めて  
います。たばこを愛用する人は、周りを  
思いやることが、なにより大切である  
と考えているからです。

さまざまである、ということ。  
それを認め合い、尊重しあえる未来の  
社会を想像しながら、私たちはJTBは  
これからも、いろいろな活動を真摯に



ひとつずつですが、未来へ。





たばこを好きな人がいます。  
たばこを嫌いな人がいます。

世の中には、さまざまな暮らしがある。  
さまざまな人がいる。

そのひとりひとりに、それぞれの思いや  
感情がある。

たばこについても同じように、いろいろ  
な考えがあると思います。

たばこを吸うことは、健康上のリスク  
を伴います。

それを認識したうえで、たばこを吸う  
大人には、それぞれにたばこを愛用  
する理由があります。

一方、たばこを吸わない人にとっては、  
たばこの煙が迷惑になることがあり  
ます。たばこを吸う大人は、つねに  
マナーを守ることを心がけるべきです。

だから私たちJTは、吸う人、吸わない  
人が共存できる世の中をめざし、さま  
ざまな活動にいま取り組んでいます。

私たちは「分煙環境の整備」を進めて

